



2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年2月5日

上場会社名 井村屋グループ株式会社
 コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中島 伸子

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役財務部長 (氏名) 富永 治郎

TEL 059-234-2146

四半期報告書提出予定日 2021年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	32,865	0.1	906	99.1	969	94.2	717	203.8
2020年3月期第3四半期	32,831	6.5	455	68.3	499	67.7	236	80.0

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 767百万円 (177.0%) 2020年3月期第3四半期 276百万円 (70.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	54.85	
2020年3月期第3四半期	18.05	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	32,180	15,877	49.1
2020年3月期	29,407	15,424	52.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 15,801百万円 2020年3月期 15,354百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		24.00	24.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				24.00	24.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	42,750	1.0	810	125.3	900	110.4	560	306.9	42.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	13,086,200 株	2020年3月期	13,086,200 株
期末自己株式数	2021年3月期3Q	1,489 株	2020年3月期	1,439 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	13,084,734 株	2020年3月期3Q	13,084,901 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により経済活動が停滞する中、感染の再拡大による影響も懸念され、先行きは引き続き非常に不透明な状況となっております。

菓子・食品業界におきましても、新型コロナウイルス感染拡大防止の中で、消費者の生活様式や消費行動が変化し、対応が容易でない経営環境となっております。

このような状況のもと当社グループは、持株会社制に移行し、2020年10月に10年目という節目を迎えました。また、中期3カ年計画「新・維新 Next Stage 2020」の最終年度であり、この急激な変化に対応し、サステナブルな成長を達成するために、活動方針として①2N (NEXT・NEW) への挑戦 ②社会性の変化を重視 ③次世代を意識した人材育成を掲げ、事業活動に取り組みました。

ニューノーマル時代への変化対応として、新しく取り組むEコマースを活用した売上強化も含め、お客様への提供価値増強経営を基軸として、「お・や・く・だ・ち経営」を推進しています。グループ内でプロジェクト活動を積極的に行い、下期からはグループ全体でDX(デジタルトランスフォーメーション)を活用した、SCMの強化、生産性の向上、更なる働き方改革等の推進に注力し、サステナブルな企業への構造改革を目指して活動を展開しております。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、コロナ禍による市場変化で、内食需要の増加と健康志向の高まりにより、「おしるこ」「ぜんざい」「冷凍パックまん」が伸長し、10月～12月においても冷凍商品が好調に推移しました。一方で、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛により、コンビニエンスストアや外食産業のスイーツ各店舗における販売は影響を受け、売上が減少しました。

以上の結果、連結売上高は、328億65百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

コスト面では、高騰が続いていた主要原料の小豆価格が平準化し、生産性向上活動を全グループで強化することもあり、売上原価が低減しました。販管費においても旅費等の削減を含め、SCM効果により人件費や在庫保管コストが減少しました。また、前期に導入したコジェネレーションシステムにより動燃費の低減とCO₂削減が図られました。さらに、このシステムを活用し、大規模災害発生時の停電と水供給の停止を回避して、近隣の方に提供できる「水ステーション」とスマートフォンに充電できる「充電ステーション」を設置し、社会貢献活動に寄与できることとなりました。

その結果、営業利益は前年同期比4億51百万円（99.1%）増の9億6百万円、経常利益は前年同期比4億70百万円（94.2%）増の9億69百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比4億81百万円（203.8%）増の7億17百万円となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業の中心となる井村屋株式会社では、冷凍カテゴリーにおいて上期に売上を伸ばした「あずきバー」シリーズが引き続き好調に推移し、売上本数は前年同期比116%の2億66百万本となり、4月～12月累計において過去最高の売上本数となりました。また、健康志向が高まる中、小豆の健康性も注目され、「ようかん類」「おしるこ」「ぜんざい」が伸長し、内食需要増により「冷凍パックまん」の売上が増加しました。一方、コンビニエンスストアでの「肉まん・あんまん」の売上は減少しました。

BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、上期においてアウトドア業界向けのスポーツ飲料や熱中症対策のスパウチ商品の受注が減少しましたが、下期においては家庭内食需要の増加でレトルト食品の伸長や新規の取り組みの強化で受託加工が増加しました。

以上の結果、流通事業の売上高は284億5百万円（前年同期比1.0%増）となり、セグメント利益は13億37百万円（前年同期比45.6%増）となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

(菓子カテゴリー)

煮汁に含まれる栄養素を還元した煮あずき製法により、健康志向で機能性の高い「えいようかん」や「片手で食べられる小さなようかん」が順調に推移しました。一方「ギフト類」の売上は減少となりました。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は36億81百万円（前年同期比1.7%減）となりました。

(食品カテゴリー)

冬物商品の「カップおしるこ」が売上を伸ばし、「レンジで簡単おしるこ」「レンジで簡単ぜんざい」が引き続き好調に推移しました。また、内食需要増により「冷凍パックまん」の売上が増加し、新発売した豚肉を一切使用せず大豆を使用した健康志向の「2コ入 大豆ミートまん」や、家庭需要をテーマとした「2コ入ホットケーキまん」も順調に推移しました。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業ではレトルト商品の内食需要増や新規の取り組みにより受託加工が増加しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は58億79百万円（前年同期比14.7%増）となりました。

(デイリーチルドカテゴリー)

デイリーチルドカテゴリーの売上高は17億74百万円（前年同期比9.1%減）となりました。

「豆腐類」ではコロナ禍で外食向け業務用商品の需要が減少しました。また、「チルドパックまん」は販売価格の適正化を図り、売上は低下しましたが、収益性は前期より改善を図ることができました。

(冷菓カテゴリー)

冷菓商品は「あずきパー」シリーズが引き続き順調に推移し、リニューアルした「やわもちアイス」シリーズでも、ラインナップを増やした「BOXやわもちアイス」シリーズの売上が増加しました。また、コンビニエンスストアと共同開発で発売した商品も好評をいただきました。加えて、海外輸出が順調に推移し、輸出売上高は前年同期比34.5%増加しました。

以上の結果、冷菓カテゴリーの売上高は109億45百万円（前年同期比9.8%増）となりました。

(点心・デリカテゴリー)

「肉まん・あんまん」などの点心・デリカテゴリーは、新商品の開発、販売に取り組みましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による外出自粛の影響があつて、コンビニエンスストアでの販売が苦戦し、減少しました。その結果、点心・デリカテゴリーの売上高は58億75百万円（前年同期比14.7%減）となりました。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受け、出店している商業施設や百貨店の要請により、休業や営業時間を短縮するなど、集客が大幅に減少しました。各店舗で品質管理と感染防止対策を徹底し、お客様満足の向上に努めてきました。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は2億49百万円（前年同期比44.6%減）となり、苦戦の期間となりました。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、新規顧客獲得やお客様ニーズに対応した商品提案に取り組みました。一時的に内食需要増による受注の増加がありましたが、コロナ禍の中で業務用商品と素材商品の受注減少により全体としては売上が伸び悩みました。

中国での調味料事業においても、新型コロナウイルスの影響が大きく、中国国内の売上が減少しました。

以上の結果、調味料事業全体の売上高は42億98百万円（前年同期比5.1%減）となり、セグメント利益は4億79百万円（前年同期比11.6%減）となりました。

③ その他事業

イムラ株式会社では、井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は新型コロナウイルスの影響により4月から6月において開催を中止しましたが、再開した7月以降は前年を上回って推移しました。しかし、イオンスタイル津南に出店している「ソフトアイスクリーム&スイーツ店WaiWai(ワイワイ)」においては客数が大きく減少しました。また、本社所在地である三重県津市の近鉄津駅構内に出店しておりました「imuraya Sweets Shop irodori」は9月30日をもって閉店させていただきました。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は1億61百万円(前年同期比8.5%減)となり、セグメント損失は16百万円(前年同期は40百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は32,180百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,773百万円の増加となりました。流動資産は、最盛期に向けた冬物商品販売に伴う売掛金の増加などにより、3,191百万円増の13,223百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の減価償却などにより、418百万円減の18,957百万円となりました。

負債は16,302百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,319百万円の増加となりました。流動負債は、未払金や冬物商品の生産に連動した買掛金の増加などにより、2,590百万円増の14,394百万円となりました。固定負債は、長期借入金及びリース債務の減少などにより、271百万円減の1,908百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年3月期通期の連結業績予想につきましては、「おしるこ」や「ぜんざい」などの冬物商品に加え、「冷凍パックまん」、冷菓商品が好調に推移しておりますが、依然として先行き不透明な消費動向を慎重に考慮し、前回発表予想から変更はありません。

ただし、新型コロナウイルス感染症の拡大が長期化、深刻化した場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。現時点で今後の動向を見通すことは困難であるため、業績予想においてはこれによる影響を見込んでおりません。今後の業績推移等によって通期業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,184,798	1,143,580
受取手形及び売掛金	5,053,528	8,890,100
商品及び製品	2,277,370	1,766,174
仕掛品	296,566	212,557
原材料及び貯蔵品	624,937	721,741
その他	596,283	491,013
貸倒引当金	△1,154	△1,538
流動資産合計	10,032,330	13,223,630
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,353,885	17,410,318
減価償却累計額	△9,329,105	△9,758,226
建物及び構築物(純額)	8,024,779	7,652,092
機械装置及び運搬具	16,437,751	16,545,335
減価償却累計額	△12,609,950	△13,239,384
機械装置及び運搬具(純額)	3,827,801	3,305,951
土地	4,244,796	4,244,796
その他	2,097,055	2,737,270
減価償却累計額	△1,318,457	△1,483,328
その他(純額)	778,597	1,253,941
有形固定資産合計	16,875,975	16,456,781
無形固定資産		
その他	169,987	158,731
無形固定資産合計	169,987	158,731
投資その他の資産		
投資有価証券	1,271,949	1,302,134
退職給付に係る資産	399,477	387,128
その他	742,960	677,335
貸倒引当金	△25,061	△25,061
投資等損失引当金	△60,000	-
投資その他の資産合計	2,329,326	2,341,537
固定資産合計	19,375,289	18,957,051
資産合計	29,407,620	32,180,681

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,222,741	3,347,164
電子記録債務	1,638,421	2,271,465
短期借入金	4,400,000	3,800,000
1年内返済予定の長期借入金	399,548	341,223
未払金	1,837,033	3,117,608
未払法人税等	193,479	273,039
賞与引当金	461,148	246,721
その他	651,589	997,714
流動負債合計	11,803,962	14,394,937
固定負債		
長期借入金	467,100	275,756
引当金	33,300	34,131
退職給付に係る負債	87,173	88,255
資産除去債務	95,185	95,799
その他	1,496,299	1,414,087
固定負債合計	2,179,058	1,908,029
負債合計	13,983,021	16,302,967
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,808,553	3,808,553
利益剰余金	7,069,743	7,473,345
自己株式	△3,050	△3,169
株主資本合計	13,451,785	13,855,268
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△77,550	△35,449
土地再評価差額金	1,942,471	1,942,471
為替換算調整勘定	△6,720	1,666
退職給付に係る調整累計額	44,118	37,301
その他の包括利益累計額合計	1,902,318	1,945,990
非支配株主持分	70,495	76,455
純資産合計	15,424,598	15,877,714
負債純資産合計	29,407,620	32,180,681

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	32,831,649	32,865,850
売上原価	22,760,031	22,581,759
売上総利益	10,071,617	10,284,090
販売費及び一般管理費	9,616,381	9,377,805
営業利益	455,236	906,285
営業外収益		
受取配当金	44,783	38,533
受取家賃	31,649	29,347
雇用調整助成金	-	17,856
その他	44,858	39,212
営業外収益合計	121,290	124,950
営業外費用		
支払利息	32,151	24,998
為替差損	34,230	35,803
その他	10,716	677
営業外費用合計	77,098	61,480
経常利益	499,428	969,755
特別利益		
補助金収入	141,960	21,800
投資等損失引当金戻入額	-	60,000
移転補償金	-	116,584
その他	0	58,690
特別利益合計	141,960	257,076
特別損失		
固定資産除却損	2,269	1,662
減損損失	39,046	59,408
投資等損失引当金繰入額	60,000	-
事務所移転費用	-	24,149
その他	-	0
特別損失合計	101,315	85,220
税金等調整前四半期純利益	540,073	1,141,611
法人税、住民税及び事業税	191,598	401,075
法人税等調整額	108,672	16,781
法人税等合計	300,270	417,856
四半期純利益	239,802	723,755
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,574	6,118
親会社株主に帰属する四半期純利益	236,228	717,636

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	239,802	723,755
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,122	42,101
繰延ヘッジ損益	△45	-
為替換算調整勘定	△32,606	8,228
退職給付に係る調整額	18,687	△6,816
その他の包括利益合計	37,158	43,513
四半期包括利益	276,960	767,268
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	275,330	761,307
非支配株主に係る四半期包括利益	1,630	5,960

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	28,126,927	4,527,958	32,654,886	176,762	32,831,649
セグメント間の内部売上高 又は振替高	88,255	180,391	268,646	4,466	273,113
計	28,215,182	4,708,350	32,923,533	181,229	33,104,762
セグメント利益又は損失(△)	918,129	542,893	1,461,022	△40,145	1,420,877

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,461,022
「その他」の区分の損失(△)	△40,145
全社費用(注)	△965,641
四半期連結損益計算書の営業利益	455,236

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」セグメントにおいて、土地の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては39,046千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	28,405,293	4,298,779	32,704,073	161,776	32,865,850
セグメント間の内部売上高 又は振替高	67,034	186,350	253,385	3,353	256,738
計	28,472,327	4,485,130	32,957,458	165,130	33,122,589
セグメント利益又は損失(△)	1,337,018	479,957	1,816,976	△16,305	1,800,670

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,816,976
「その他」の区分の損失(△)	△16,305
全社費用(注)	△894,385
四半期連結損益計算書の営業利益	906,285

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
(固定資産に係る重要な減損損失)

「流通事業」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては59,408千円であります。